

ここ数年の町民税の増税にもかかわらず、平成20年度の町民税収入の見込み額を平成19年度より2500万円少なく見積もっている。このことは町民の所得が大きく減っていることを表している。町長は、町民の暮らしの実態をどのように認識しているか。

高薄町長

帯広財務事務所が公表している経済情報では、酪農、畑作とも生産量は上回っているが、実質的に減収となっている。また、公共事業の減少による建設部門の低調で、有効求人倍率も前年を下回っており、消費面でも低調な状況で、厳しさが増していることを肌身で感じている。

後期高齢者の医療はどう変わるのか

妻島公一議員

4月から後期高齢者医療制度が始まる。この制度



4月からスタートした後期高齢者医療制度

の内容が知られるほど、「高齢者は死ぬということ」か、「いつ声が大きくなくなってきている。次の3点について伺う。」

①清水町の75歳以上の保険料は現行と比べてどうなるのか。

②滞納者に対する保険証取り上げについて町長の考えは。

③75歳以上の方の医療はどう変わるのか。

高薄町長

①広域連合から示されている額が約1億3000万円。国民健康保険と比べると1人当たり100円から120円くらい高くなる。

②資格証明書は以前にも述べたが、本意ではなく、改善に向けて努力している。かなければならない。

③慢性的な病気が多く、新

制度では主治医を患者が指定し、主治医は年間の診療計画をつくり、患者は1か月毎に後期高齢者診療料600円を払って、何回でも検査を受けられるようにする予定で、また、主治医以外の専門医院も今までと同じようにかかることができる。

行政の役割と住民生活

荒木篤司議員

高薄町政がスタートして7年が経過したが、行革一辺倒で町民の暮らしに目を向けた町政運営がなされてきたか疑問である。お金がないからだと、財政が厳しいからだと、果たしてそれだけだろう

か。昔から、金がなければ知恵を出せといわれているが、本当にないのは知恵を出そうという姿勢ではなからうか。

今、人口減少社会の中で、黙って立ち止まっていれば町がどんどん衰退していく事実を認識し、町長は勇気をもって、町村間競争も含め町民のために立ち上がる考えがあるか伺う。

高薄町長

町政を担ってから大胆な政策変更をし、スキー場をはじめ、さまざまな施設を統廃合しており、削減一辺倒ではなく、働きかけをして理解をいただいている。

お金がなくても知恵を出そうということでは、町民の皆様も町への依頼を少なくし、自分たちで福祉施設の事業展開が行われ、観光施設は町との協調により羽帯地区に事業展開されており、十勝のなかでも独自性が評価されている。他町の戦いは、できる

ものは当然やらなければならぬが、地理的な条件でできないものもある。

職員のやる気を引き出す方法は考えられないか

荒木篤司議員

昨年秋、税務課の一職員の業務怠慢のため、課税相手先を間違えて納付させていたという事実が明らかになった。

町は、組織的な電算の入力ミスが原因で今後チェック体制を強化するとし、税務課長以下を処分して一件落着としたが、今回の対応は臭いものに蓋^{ふた}で、何ら再発防止の手立てになっていない。

人事院は、一昨年、国家公務員の分限理由についての対応措置を公表したが、本町もそれに習い、職員一人ひとりに厳正な対応ができる機関の設置も含め、考えるときではないか。

高薄町長

防止対策として副町長から事務執行の総点検を指示し、ひとつひとつの問題点を洗い出し、改善すべきものは改善して、適正な事務執行を行うようにしている。

分限審査会等の機関は、平成20年度に検討して設置していく考えで、併せて公務効率の維持等の対策も検討したい。

グリーン農業を推進して経済活性化を図ろう

橋本晃明議員

有機農業支援やエコファーマー認証の奨励などで、生産物のブランド力向上を図り、道の駅等直売所の必然性を醸成すべきではないか。

酪農のパワー排水処理について、現場に即した実効性ある取組みを早急に研究すべきではないか。グリーン農業を町の個